

大井町立湘光中学校

研究テーマ：主体的に学習に取り組む生徒の育成に向けて ～聴いて、考えて、つなげる授業づくり～

1 実践の目的

本校の取組として、「学びのステップ」「カンファレンス」「学習プラン」「考え、議論する道徳」などがある。「学びのステップ」は、聴き方・話し方を身に付けることで、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を目指している。また、生徒どうしの話し合い活動をとおして、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育もうとしている。

「カンファレンス」では、より質の高い授業について、様々な学年の生徒と教師がともに考え話し合うことで、学びを深化させるとともに主体的に学習に取り組む態度を養うことをねらいとしている。そして、生徒に「学習プラン」を提示することで、生徒自身が見通しをもって学習に取り組むことができている。また、単元を通しての「付けたい力」を明確にし、学ぶ力と調整力の育成をねらう。「考え、議論する道徳」では、生徒とともに問いを創造し、議論することによって、生徒が自分事として捉え考えを深める授業に取り組んでいる。このことにより、道徳的価値観に迫るための言語活動の充実を目指している。

これらをとおして、「生徒が主役」の授業をつくりあげ、生徒一人ひとりの生きる力を育むことを目的とする。



2 実践の内容

(1) 研究組織

「学習の基盤となる資質・能力」を育成する授業を提案するために、各教科を3つのグループに分類し、研究を進めた。

○グループA【言語能力】

国語 音楽 英語（外国語）

○グループB【情報活用能力】

数学 理科 技術・家庭

○グループC【問題発見・解決能力】

社会 美術 保健体育

各グループで教科横断的な視点に立ってチームでの検討会を実施した。

(2) 提案授業、カンファレンスの様子

提案授業を実施する3週間前より、各グループでの検討会を行っている。検討会では、グループ全員が提案者という意識をもち、学習プランを基に単元全体をとおして定着させたい資質・能力を育成することができるか、育成するためのねらいやしかけは適切かなどを検討している。

カンファレンスは、「授業はねらいに迫れていたか」や「授業のしかけは、ねらいを達成するためのものになっていたか」を議題の中心とする、より質の高い授業をつくりあげるための検討会である。教師と生徒がグループになって行うカンファレンスAと、教師のみのグループと生徒のみのグループに分かれて行うカンファレンスBの2部構成となっている。教師や生徒が授業について本音で話し合い、今後の授業をどう良く

していくかを検討する中で、生徒は教師主導型の学習ではなく、生徒自身の新たな視点で主体的に学習に取り組むようになるとともに、教師は生徒の本音を受け止めた授業改善を図っている。

(3) 校内研修会の様子

今年度は「学習プランから始まる授業づくり」と、「主体的に学習に取り組む態度の評価」についての研修を授業改善アドバイザー三浦修一先生のもと行った。

今年度に湘光中学校に異動してきた教師が湘光中学校で取り組んでいる「学習プラン」を基にした授業づくりへの理解を深めるとともに、教師全員で共通認識をもって授業づくり・授業改善に取り組むことにつながった。

また、3観点の評価が導入されて以降、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の方法については、多くの課題があげられてきた。今回の研修では、教師が互いに「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法や課題を共有した上で、教科の枠をこえて協議を行い、評価についての意識を深めることができた。

3 実践の成果と課題

(1) 教師や生徒の変容

教師側は「学習プラン」をもとに「生徒が主役」となる授業づくりに取り組んだことで、個別最適な学びと協働的な学びをバランスよく取り入れながら、生徒が主体的に取り組む授業実践の成果が少しずつ表れてきた。

生徒側は、「学びのステップ」や「考え、議論する道徳」などで多様な言語活動を行うことで、授業の様々な場面で相手の考えをしっかりと聴くことや、自分の考えを分

かりやすく伝えることができるようになってきている。ただ、相手の意見を聞いた後、自分の意見と比較しながらより深く考え、それをまた新たな考えや次の学習課題の解決につなげることには課題が見られる。

(2) カンファレンスの成果

教師と生徒がともに考える仕組みが定着し、充実したカンファレンスが行われている。また、生徒のみのカンファレンスも行い、生徒の本音を引き出しやすくすることで、教師も生徒側の視点をより正確に把握できるようになり、より効果的な授業改善につなげることができている。また、繰り返しカンファレンスを経験することで、教師に近い目線で授業について考えられる生徒もでてきており、生徒が授業に組み込まれた活動の意味について把握するのに有効であることが分かった。



4 今後の展開

(1) 学びのステップのバージョンアップ

現在、「聴き方」「話し方」の2つの柱を設定しているが、今後、「考え方」を加えた3つの柱で研究を進めていく。

(2) 残された課題への対応

協働的な学びの中で、課題の考え方や解決方法を議論するのではなく、答えを確認しているだけで自己解決力の向上につながっていない生徒もいる。協働的な学びを取り入れる際には、相手の意見を聞いて、自分の考えを深め、それをまた新たな考えや次の学習課題の解決につなげていくように指導していく。